

令和6年3月6日

令和5年度病害虫防除技術情報（第3号）

和歌山県農作物病害虫防除所

タマネギベと病の発生に注意して下さい

県北部のタマネギにおいて、べと病の越年罹病株の発生が多く認められました。気象予報（大阪管区气象台、令和6年2月29日発表）によると、向こう1か月の平均気温が平年並または高い見込みであることから、今後の降雨の状況によっては発生の増加が懸念されます。ほ場をよく観察し、防除を徹底しましょう。

1. 対象作物：タマネギ
2. 対象地域：県北部
3. 発生時期：2～6月
4. 発生状況

- 1) 3月上旬の県北部におけるタマネギベと病越年罹病株（写真1）の発生ほ場率は10%、発病株率は0.26%であった。発生ほ場率は、3月上旬の平均（4%）と比べて高く、3月中下旬の平均（9%）と同程度であった。発病株率は、3月上旬の平均（0.03%）、3月中下旬の平均（0.11%）と比べて高かった（表1）。

表1 3月上旬および中下旬の県北部におけるタマネギベと病越年罹病株の発生状況

	平成 26年	平成 27年	平成 28年	平成 29年	平成 30年	平成 31年	令和 2年	令和 3年	令和 4年	令和 5年	平均	令和6年 (本年)
3月上旬												
発生ほ場率 (%)	-	-	0	0	-	6	3	10	-	-	4	10
発病株率 (%)	-	-	0	0	-	0.04	0.04	0.09	-	-	0.03	0.26
3月中下旬												
発生ほ場率 (%)	3	7	0	8	9	6	10	10	27	13	9	-
発病株率 (%)	0.01	0.01	0	0.07	0.03	0.05	0.12	0.12	0.51	0.21	0.11	-

注) -はデータなし

5. 防除上の注意事項

- 1) 前年に発生が多かったほ場は、本年も発生しやすい。
- 2) 本病は、気温15℃前後で曇雨天が続くと多発する。気温が高く降水量が多い場合は、本病の発生および増加に注意する。
- 3) ほ場をこまめに見回り、越年罹病株の早期発見と抜き取りを徹底する。二次感染株（写真2）を確認した場合は発病葉を除去する。抜き取った株や発病葉は袋に入れ、ほ場の外に持ち出して適切に処分する。
- 4) 越年罹病株や二次感染株を確認した場合は、早急に薬剤散布を行う。発生が認められないほ場においても孢子飛散による感染拡大を防ぐため、予防散布を徹底する。
- 5) 同一系統の薬剤の連用は耐性菌の発生を助長するので、複数系統の薬剤によるローテーション散布を行う。
- 6) 排水を良好にし、降雨による浸冠水や停滞水をなくす。

7) 防除薬剤は最新の登録情報（農林水産省 農薬登録情報提供システム <https://pesticide.maff.go.jp/>）を参照し、適正に使用する。

和歌山県農作物病虫害防除所  
電話：0736(64)2300



写真1 タマネギベと病越冬罹病株

10～12月頃に苗床や本ぽで感染し、翌年の2～3月頃に発病が認められる株。葉の光沢がなくなり黄化・湾曲し、生育が悪く、草丈が低くなることが多い。



写真2 タマネギベと病二次感染株の病斑

越冬罹病株上に形成された分生子により感染し発病する。葉に淡黄色の楕円形～長卵形の病斑を生じる。また、二次感染株上にも分生子が作られ、適した条件になると分生子による感染と発病を繰り返す。4～5月に発生が多くなる。